



議会だより

わとまり



CONTENTS

こんなことが決まりました	2P
10名の議員が町政を問う	3P
決算認定・監査委員意見書より	13P
現地調査・所管事務調査	14P
(総務文教常任委員会)	
要望書提出・活動報告	15P
(経済建設常任委員会)	
子ども議会	16P
編集後記	20P



左の二次元コードをスマートフォン
などで読み取ると、町議会のホーム
ページにリンクします。

議長

令和7年 第3回 定例会(9月9日～17日)

議案番号	件名	議員名（議席番号順）												議事結果
		市来武次	川間哲志	中村むつ子	山口明日香	島田浩樹	松村靖江	池田正一	東弘明	中田隆洋	桂弘一	喜井和夫	永野利則	
	【表の見方】 報：報告 承：承認 諮：諮問 議：議案 陳：陳情 発：発議 請：請願 ◎：全会一致 ◇：賛成 ◆：反対 ー：表決権なし 欠：欠席													
報6	財政健全化判断比率について	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー
報7	資金不足比率について	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー
承11	専決処分の承認を求めることについて(令和7年度和泊町一般会計補正予算第2号)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	ー	承認
承12	専決処分の承認を求めることについて(令和7年度和泊町一般会計補正予算第3号)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	ー	承認
承13	専決処分の承認を求めることについて(令和7年度和泊町一般会計補正予算第4号)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	ー	承認
承14	専決処分の承認を求めることについて(令和7年度和泊町下水道事業会計補正予算第2号)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	ー	承認
議44	沖永良部地区基幹水利施設管理条例の制定について	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	ー	原案可決
議45	和泊町入学準備金貸付条例の制定について	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	ー	原案可決
議46	和泊町報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	ー	原案可決
議47	和泊町税条例の一部を改正する条例の制定について	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	ー	原案可決
議48	令和7年度和泊町一般会計補正予算(第5号)の議決について	◇	◆	◇	◇	◆	◆	◆	◆	◇	◆	◆	ー	否決
議49	令和7年度和泊町介護保険特別会計補正予算(第2号)の議決について	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	ー	原案可決
議50	令和7年度和泊町下水道事業会計補正予算(第3号)の議決について	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	ー	原案可決
議51	令和7年度和泊町水道事業会計補正予算(第2号)の議決について	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	ー	原案可決
議52	令和6年度和泊町一般会計歳入歳出決算認定について	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	欠	◎	◎	◎	ー	認定
議53	令和6年度和泊町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	欠	◎	◎	◎	ー	認定
議54	令和6年度和泊町奨学資金特別会計歳入歳出決算認定について	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	欠	◎	◎	◎	ー	認定
議55	令和6年度和泊町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	欠	◎	◎	◎	ー	認定
議56	令和6年度和泊町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	欠	◎	◎	◎	ー	認定
議57	令和6年度和泊町下水道事業会計剰余金の処分の議決及び決算認定について	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	欠	◎	◎	◎	ー	可決認定
議58	令和6年度和泊町水道事業会計剰余金の処分の議決及び決算認定について	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	欠	◎	◎	◎	ー	可決認定
	議員派遣について	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	欠	◎	◎	◎	ー	可決
	議会運営委員会の閉会中の継続調査申出書について	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	欠	◎	◎	◎	ー	可決
	各常任委員会の閉会中の継続調査申出書について	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	欠	◎	◎	◎	ー	可決

※永野利則議員は議長職のため、特別多数議決以外の議案については表決(賛成・反対の意思表示)権はありません。
※喜井和夫議員は9/9・10、東弘明議員は9/16・17欠席。

賛成反対がわかれた案件

議案第48号 令和7年度和泊町一般会計補正予算第5号の議決について（賛成4 反対7）	
〈反対討論〉 島田浩樹議員	総合交流施設建設事業費は、令和7年度当初予算で第6次総合振興計画をもとにして可決し、教育委員会が提出された令和7年度教育行政の重点施策も可決しております。
	令和7年度から始まりました第3期和泊町未来予想図プロジェクト、これは令和7年度から令和11年度までの総合振興計画の後半の計画であります。
	和泊町議会の条例として、和泊町議会の議決する件は、和泊町総合振興計画の策定・変更または廃止に関して、議決する権利があると明記されています。町長は中止とおっしゃっていますが、議会対応もない中、この第6次総合振興計画をいきなり変更して、本定例会の補正予算、3700万に組み込む手法は、民主的なやり方ではないと思っております。
	関係機関、職員の方も一生懸命ここまで取り組んできたと思います。
	まずは、職員の皆さん、いろいろな方と話し合いをして、議会が可決した後に補正予算に組み込むのが行政手法ではないのかなと思います。他の予算は専決処分が良いと思いますが、この件に関しましては、時期尚早と思います。
〈賛成討論〉 市来武次議員	総合交流施設建設の設計業務委託料の補正については、質疑の際の副町長からの答弁等にも関連するが、時代というのは常に変化しているので、減額補正については賛成いたします。

ココが聞きたい 一般質問 町政を問う!!

令和7年第3回
議会定例会

ひがし ひろあき
●東 弘明 議員
納得と対話の町政運営をP3

かつら ひろかず
●桂 弘一 議員
学校施設の適正配置を
考えるP4

なかむら こ
●中村 むつ子 議員
町民が知って選択できる
情報提供をP5

やまぐち あすか
●山口 明日香 議員
子どもの未来を育む
まちづくりをP6

いちき むつく
●市来 武次 議員
人への投資でまちの
活性化へP7

まつむら きぬえ
●松村 絹江 議員
町民にやさしい町民主体の
町づくりP8

いけだ しょういち
●池田 正一 議員
こども達に希望と夢を
.....P9

かわま てつし
●川間 哲志 議員
和泊町の潜在的な可能性に
.....P10

しまだ ひろき
●島田 浩樹 議員
町民の所得向上を
.....P11

なかだ たかひろ
●中田 隆洋 議員
積極的な交付金の活用を
.....P12

一般質問とは??

議員が町の行財政全般について、事務・予算等の執行状況や、今後の考え・方針を聞き、疑問点を質すること。



納得と対話の町政運営を



ひがし ひろあき
東 弘明 議員

えらぶゆりリバイバル事業

問 成果と課題は。

答

優良球根の助成を延べ17名に対して6264球を配布した。また、リン片ほ場作付面積延べ744.5aに対して744万5千円を交付している。

加えて、農業助成を行うこ

とで産地全体の高品質出荷に努めた。

課題は、生産量が減少傾向にあることと、省力化の取り組みが進まないことが課題。

問 球根掘取り機の改良は。

答

バレイショハーベスタやバレイショ掘取り機を活用して実証を行い、実用に向けて機械メーカーへ打診したが、改良を引受けていただけのメーカーが無く進捗が厳しい状況。

避難所の取り組み

本町の避難所での取り組みと問題点は。

答

災害時に町民の皆さまが安心して避難できるよう、各字区長の皆さんと連携しながら、迅速かつ円滑な運営を心がけている。

課題は、公民館などの避難所については、施設の構造上どうしても熱中症への対応が難しい面がある。

また、プライバシーの確保という点でも、現在簡易テントや間仕切りを備えてはいるものの、すべての避難者に行き渡るだけの数が十分とは言えない。

町民の皆さまにとって、いざというときに着実な備えを強化していく。

道路の管理体制

問 町道・農道の維持管理は。

答

町道は、会計年度任用職員3名を道路維持班として雇用し、各種土木施策の修繕や伐採等各字からの依頼を中心に対応を行っている。

農道は、多面的機能支払交付金を活用した水土里サークル活動にて協定区域内の農道の草刈りや軽微な補修等を実施し管理を行っている。

学校施設の適正配置を考える



かつら ひろかず
桂 弘一 議員

こども園、小中学校の統廃合

問 内城こども園と大城こども園の統合について議会

説明があったが、具体的な手順は。

答 アンケート結果を踏まえ

て、子ども子育て会議において意見を伺ったところ、保護者への丁寧な説明や地域への情報提供、新年度入園募集までのタイミング等を考慮すると、目標としていた令和8年度に統廃合を行うのは厳しいという、意見が集約された。

こども園の統廃合については、保護者や地域との合意

形成が図られたうえでの実施となることから、今回のアンケート結果及び子ども子育て会議の意見を踏まえ、改めて保護者への説明や地域との意見交換等を実施したうえで、実施時期等について決定していくこととする。

町としては、こども達にとってより良い教育・保育環境を整えることを最優先とし、こども園の統廃合について取り組んでいく。

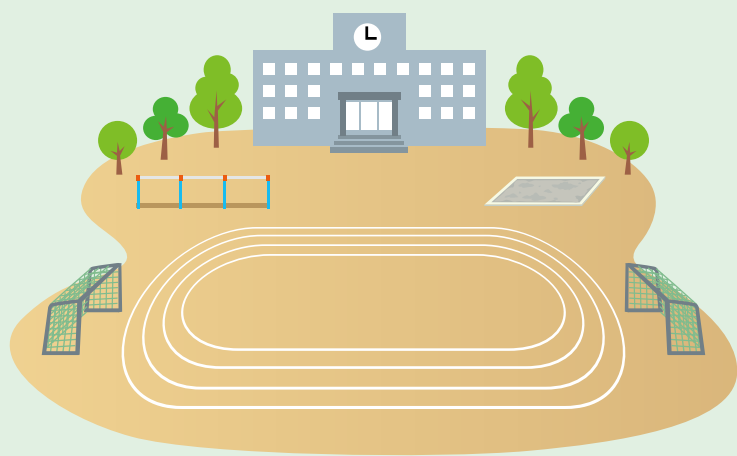
問 小中学校の統廃合の話は、総合教育会議等で行っているか。

答 7月15日には総合教育会議が開催され、学校の統

廃合についての意見交換を行った。その中で、地域住民と気軽に語り合える場の必要性や、仮に統合した後の空き施設の利用についての議論の

必要性が挙げられた。

教育委員会としては、龍郷町や他自治体の取り組みを参考としながら、まずは学校運営協議会を通じて、教職員・保護者・地域住民の皆様の意見を伺うための座談会を実施するなど、丁寧な対話の機会を創出していく。



町有財産の管理

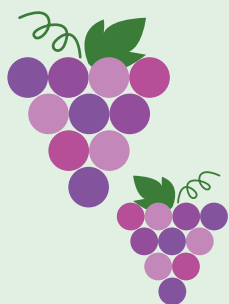
問 未活用の町有財産の活用や払い下げ等の計画

は。

答 今後の方向性としては、地域の皆さんや関係団

体の意見も伺いながら、**①**売却や貸付を通じた財源の確保**②**公共的な活用を通じた住民サービスの向上といった観点から、幅広く検討を進めていきたいと思っている。

また、町の人口の推移や財政の状況など、将来的な見通しもきちんと踏まえながら、「持続可能な町有財産の管理」、そして「地域の元気につながる利活用」を目指して、引き続き前向きに取り組んでいく。



町民が知って選択できる情報提供を



なかむら こと 中村 むつ子 議員

介護現場

問 ヘルパー等の人材確保は。

答 介護保険事業者連絡協議会を中心に、事業者及び従事者支援等について協議を重ね、介護人材確保に資する施策を推進していく。

問 ケアマネジャーの確保において、町独自のシステム構築の予定は。

答 潜在ケアマネジャーの実態把握、処遇改善や業務負担の軽減など事業者等と協議しながら、確保について検討していく。

新型コロナウイルスワクチン接種後の

データ

問 厚生労働省が認めた新型コロナウイルスワクチン接種による死亡者数は。

答 接種による死亡者数については、1032人。

問 厚生労働省が認めた新型コロナウイルスワクチン接種による後遺症と認められる人数は。

答 接種後の後遺症件数については、216件。



脱炭素事業

問 ソーラーパネルの危険性は。

答 一部の報道やネット上では、安全性や廃棄物処理に関する不安が取り上げられているが、そのような懸念に真摯に耳を傾け、町として導入している設備については、しっかりとした安全基準に基づいて選定・設置を行っている。なので、安心いただければと思っている。

問 EVバスの危険性は。

答 想定されるリスクとしては、リチウムイオン電池の発熱や火災、感電などが挙げられる。

導入後は定期的な点検整備を確実に実施し、運転手や関係者への安全研修を行うとともに、消防機関等と連携し、安全性を十分に確保した運用に努めていく。

町民への情報提供

問 サンサンテレビを利用して、各課のコーナーを作り、文字だけではなく、事業内容を町民に知らせることはできないか。

答 サンサンテレビの大きな役割として、町の情報を各家庭に届けるということがある。現在自主放送については民間委託を行っており、撮影や編集技術にも優れた放送で、有線テレビ加入者へ情報を伝えられる体制を整えている。

必要に応じて、全町民対象であれば、広く有線テレビを活用した周知は可能である。



子どもの未来を育むまちづくりを



山口 明日香 議員
あすか やまぐち

小中学校における

「隠れ教育費」の負担軽減

問 算数セット等の特定学用品の公共財化（学校備品化）及び教材費の無償化

は。

答 教材費を無償化する事は、家庭の経済状況にか

かわらず、すべての児童生徒が同じ学用品を使えるようになることで、教育の公平性が高まり、使い終わった学用品を学校で保管・整備し、次年度以降も再利用すれば、無駄な消費を抑えられリユース・循環利用する事が出来る。

その一方、その教材を学校



▲算数セット

側で保管・整備・貸出管理を行うには、学校側の手間や全ての学校に共通の備品を用意するなど、初期費用もかかる。

今後は、関係機関と連携し、ニーズ調査を行うなど現状を把握しながら、財源の確保や運用方法について、検討を進め持続可能な制度設計を目指していきたい。

沖永良部高等学校における教育環境の充実

問 遠征費負担や学習端末整備の現状をどの程度把握しているか。町としての支援のあり方や、県に対する要望・働きかけは。

答 沖永良部高等学校の生徒等は、島外での大会や研修等に参加する際、交通費・宿泊費など他の地域に比べて高額な遠征費を自己負担しており、家庭への大きな負担となっていると認識し、地域による教育格差の一因にもなり得ると考える。

これまでも学校や保護者からの声を通じて、経済的な負担の大きさや、参加機会の制限につながっている実態を一定程度把握している。

学習端末の整備に関しても、県の方針に基づき一人一台の配備が進められているものの、通信環境や家庭の経済

状況によって利活用に差が生じる可能性も懸念されている。

今後は、学校関係者・保護者・知名町との意見交換の場を設け、具体的なニーズの把握と共有を行い、生徒たちの学びの保証という観点から、町として可能な支援の在り方を積極的に検討し、県教育委員会とも連携・協議を進めていきたいと考える。



▲沖永良部高等学校

人への投資でまちの活性化へ

いちき むつく
市来 武次 議員

学校再編

問 学校再編についてどのような認識を持ち、どのように取り組んでいくのか。

答 学校再編は、単なる学校の統廃合ではなく、子どもたち一人ひとりの健やかな成長と質の高い教育環境を確保するための重要な手段であると認識している。

地域ごとに座談会を開催し、保護者や地域住民の皆様意見を幅広く丁寧伺い、「学校のあり方検討会」を設置して議論していく。

児童の熱中症対策

問 児童の登下校時の暑さ対策は。

答 児童生徒の安全確保は重要な課題と認識しており、登下校中の暑さ対策として、①水分補給の徹底②登下校時の帽子着用や汗ふきタオルの持参に取り組んでいる。

部活動の送迎

問 保護者による送迎が課題となっているが、対策は。

答 より安全で持続可能な形が求められるため地域全体で、生徒達の活動を支える仕組みを確立し、推進協議会において早急に協議・検討していきたい。



子育て環境の充実

問 子育て世帯の可処分時間を増やす取り組みは。

答 ファミリーサポートセンター事業やこども園において一時預かり事業を実施し、ゆとりある子育てのお手伝いを行っている。

郷土学

問 昭和100年にあたり、昭和初期の暮らしの様子や方言・文化などを残していくべきだと思うが、そのような取り組みは。

答 郷土の歴史や文化を次世代に継承していくことの重要性について深く認識し、先人たちの知恵や経験は、かけがえのない財産だと考えている。

戦後80年の機会を捉え、①ミニ企画展『太平洋戦争と沖永良部島』②「戦後80年和泊の戦中・戦後アーカイブプロ

ジェクト」③民俗写真家・芳賀日出男氏の写真展の取り組みを進めている。

観光産業振興

問 観光産業の拡大の重要性についてどのように認識し、どのように取り組んでいくのか。

答 観光産業は、島外から外貨を稼ぎ、本町の地域経済を支える産業の一つであり、交流及び関係人口の拡大や創出、地域資源の活用を通じて、持続可能なまちづくりに大きく寄与するものと認識している。

第2次おきのえらぶ島観光基本計画に基づいて、本町固有の魅力を活用した観光コンテナの造成などを行うと共に、県及び奄美群島12市町村と広域的な連携や、沖縄県との連携にも力を入れていく。

町民にやさしい町民主体の町づくり

まつむら きぬえ
松村 絹江 議員

障害者施設の開設

問 令和6年第3回定例会後の進捗状況と今後の具体的な取り組みは。

答 障害者向けのグループホーム開設を検討している事業者は、現在も開設に向けた取り組みを進めている。事業者は本町や大島支庁から申請に関する情報を収集し、人員確保のための募集を行っているが、サービス管理責任者など専門的な資格や経験を持つ人材の確保に苦慮している。

また、既存施設を活用したグループホームの開設を検討

しており、現時点では施設基準や人員基準を満たしていないことから、開設手続きに至っていない。

既存の公共施設整備

問 町民グラウンドにトイレの新設は。

答 現在町民グラウンドには1カ所、トイレが設置されており、これまでの町民スポーツ大会ではトイレが少なく不便を感じたこともある。新たに設置するにあたり、多額の費用が発生する。また、今後LED照明へと順次更新していく必要があり、その取り替えに多額の予算を要する。

今後、施設の維持管理等が終了した際には、検討していきたいと考えている。

問 町民グラウンドに電光掲示板の設置は。

答 陸上競技場などで使用される電光掲示板を設置することで、町民スポーツ大会や陸上競技大会等において記録の見やすさや表示内容・競技運営の効率化などが挙げられる。

競技結果を自動的に表示し、記録係の負担を軽減することができ、競技の進行状況をリアルタイムで表示することで観客に分かりやすく情報を提供することができる。

今後、本町にとって必要な規模・性能等を町スポーツ協会などとも協議し、検討していきたいと考えている。

運転免許証返納者への支援は

問 買い物難民に対する支援策は。

答 買い物難民に対する支援策については、町が実施

している支援策として、敬老バス事業や障害者バス無料乗車補助事業、高齢者等ハンドル型電動車椅子購入助成事業などがある。有償ボランティア「あぐネット」による買い物手伝いなどが実施されている。

今後、県道の支援策の活用や関係団体等との連携した取り組みを検討していく。

問 高齢者配食サービスの充実に向けた取り組みは。

答 今年度から弁当提供事業所を2事業所、配達事業所を1事業所の新体制で運用している。

今後の配食サービスの充実に関しては、利用者の状態に合わせた食事形態への対応や7月に実施したアンケートの結果等を委託事業者と共有し、協議を行いながら良いサービスを提供できるよう努めていく。

こども達に希望と夢を



いけだ しょういち
池田 正一 議員

2期前町政^{すめ}

問 1期目は行財政改革を積極的に取り組んできたが、2期目にあたり一番のマニフェストは。

答 2期目の最大の柱としては、「人が真ん中のまちづくり」をテーマに掲げている。制度や予算が先にあるのではなく、まずは町民の暮らしがあつてこそ。一人ひとりの生活に寄り添い、そこにあつての声に真摯に耳を傾けながら、行政としての役割を丁寧に果たしていく。そうした原点を忘れずに、日々の行政運営に向き合っていく。

問 こども園の統廃合は。

答 こども園の統廃合を進めるにあたっては、保護者や地域への説明、意見交換などによる合意形成を図り、こども達にとって、より良い保育環境を整備するための施策として取り組んでいく。

問 少子化対策は。

答 本町においては、少子化対策の一環として今年度から結婚新生活支援事業を実施している。

今後も「安心して楽しい子育て、夢がある子育てに向けて、地域で子育てができる心ゆたかなまちづくりを目指す」ことを基本理念に掲げ、子育て支援施策を推進していく。

教育行政

問 小中学校の近い将来のあり方は。

答 令和7年度の教育行政の重点施策として、「子ども・保護者・地域から情報収集し、学校のあり方検討会を設置する」ことを計画している。

学校のあり方については、町民の皆様の共通認識を形成していくことが不可欠であり、丁寧な説明と対話を重ねながら、将来を見据えた議論を深めていく。

問 今後の中学校の部活動のあり方は。

答 近年、生徒数が減少し部活動の維持が困難になり、チーム編成ができない部活動が増えつつあり、合同チームでの大会参加も増えている。

今後も全ての部活動において専門的技術を要する指導員

を配置できるよう取り組んでいく。

受益者負担と公的負担のバランスなど、費用負担の在り方について、推進協議会において議論し、学校・家庭・地域が一体となり生徒のために、持続可能な部活動にできるよう取り組んでいく。



和泊町の潜在的な可能性に

かわま てつし
川間 哲志 議員

前町長の2期目の町政

問 漁業を取り巻く環境も厳しくなっているが養殖などの可能性は。

答 陸上養殖のメリットとして、人為的な魚類の飼養管理が可能であることから、消費者や市場のニーズに合わせた生産体制の確立も期待される。

以上のことから、水産物の陸上養殖は、島の新たな漁業形態の実現に向けた方策の一つとなり得ると考える。

問 少子高齢化、人口減少などの問題に対し、どのような対策を講じ町民の幸福度を向上させるのか。

答 少子高齢化、人口減少の問題への対策に関して、移住相談や空き家バンク掲載による島外からのU・Rターンの移住・定住を促進しつつ、地域への定着のため昨年度から開催されている移住者交流会で、町民と移住者のつながりづくりを行っている。

また、えらぶ島づくり事業協同組合では、島内外から職員を募集し、移住者増加へ貢献するとともに、島内の様々な職業の繁忙期を組み合わせたマルチワークの導入により企業の人材確保、雇用の創出を行うことで島内の活性化に寄与している。

問 本町の基幹産業である農業を発展させるために、実験農場の活用は。

答 環境に配慮した栽培技術の確立

化学肥料・農薬低減技術や土壌診断に基づく土づくり等、持続可能な農業に資する実証試験を推進する。

〈新品目の導入と実証〉
島外市場の需要を踏まえた新

さとうきびの堆肥散布代【散布量目安:3t/10a】

トラック2台(3t)の場合

20,900円(税込)▶10,450円(税込)

※さとうきび生産振興事業費から半額助成あり

データ提供…沖永良部農業開発組合

品目や、環境変動に強い作物の導入試験を継続し、地域農業の選択肢を広げていく。

〈研修・人材育成の拠点機能〉

新規就農者や若手農業者を対象に、ほ場や施設の貸出しを行い、担い手の育成を図っていく。

〈農業のスマート化対応〉

ICTや省力機械の導入試験を行い、労働力不足への対応と効率的な営農体系の確立を目指すしていく。

以上のとおり、和泊町実験農場については、地域農業を支える実証・研修の拠点として、今後とも計画的かつ効果的な活用を進めていく。



しまだ ひろき
島田 浩樹 議員

問 町長の公約に、人への投資を積極的にとあるが具

体的な施策は。

答 「人が真ん中のまちづく
り」制度を先に作ってか
ら進めるのではなく、まずは
町民の皆さんの声にしっかり
耳を傾けること。その上で、
何が必要かを一緒に考えてい
くことが、本当に意味のある
「人への投資」につながると
信じている。

例えば、子育て支援の充実や教育・療育の環境整備、高齢者の皆さんへの福祉支援や農業をはじめとする地域産業



▲二次元コードから、町ホームページ(第3期わどまり未来予想図プロジェクトの策定について)にリンクします。

の担い手づくり、こうしたことと一つひとつが、「人を大切にするまちづくり」だと考えて、町として全力で取り組んできた。

今は、物価の高騰や人口減少、さまざまな難しい課題がある時代。だからこそ、市民の皆さんと一緒に一歩ずつでも、未来に向かって歩みを進めていくことが大切だと考えている。

今後も、「人への投資」をしつかり形にしながら、町民の皆さんの暮らしを守り、希望ある未来につなげていけるよう、誠実に、丁寧に取り組んでいく。

[illegible]

令和6年度に「第2期わどまり未来予想図プロジェクト」の計画期間が完了することや、急速な少子高齢化や人口減少、自治体DXの推進やカーボンニュートラルに対応するため、人口ビジョン及び総合戦略を改訂した「第3期わどまり未来予想図プロジェクト」を策定しました。

「第3期わどまり未来予想図プロジェクト」の策定にあたっては、町民参加型ワークショップやパブリックコメントを実施し、町民の方の意見を取り入れています。

(和泊町ホームページを参照、一部抜粋して掲載)

- 4つの1**

地域経済を活性化し、安定的な仕事をつくる

 - 地域経済を活性化（重要）
 - 経済成長を促進（重要）
 - 民間でやるプロジェクト（環境省・農林水産省・経済産業省）
 - 民間でやるプロジェクト（農林水産省・経済産業省）
 - 行政が推進する事業
- 4つの2**

国内外からの交流人口の増加を促進

 - 居住・定住促進事業
 - ようやく上へはプロジェクトが重要
 - ようやく上へはプロジェクトが重要（ソフト）
 - 民間でやるプロジェクトがより重要になる
 - 民間でやるプロジェクトが重要になる
- 4つの3**

安心・夢・ひとのあふれる子育てを目標

 - ちゃんどプロジェクト（トビイロ）
 - ちゃんど、ふたのこプロジェクト
 - ちゃんど・子育て支援事業
- 4つの4**

所長さんらが組織で、安心・安全、自立した地域づくり

 - ちゃんどプロジェクト
 - ちゃんどプロジェクト
 - ちゃんどプロジェクト（自動車あんばい）
 - ちゃんどプロジェクト

4つの柱①
仕事で暮らす
6人1人

4つの柱②
地域を愛する
ふるさとを愛する
ふるさとを愛する
ふるさとを愛する

4つの柱③
学びを育む
子どもを育てる
子どもを育てる
子どもを育てる

4つの柱④
人びとをつなぐ
町民さんみんなの健康で
暮らしを豊かに
暮らしを豊かに
暮らしを豊かに

横断的な目標 ① DXの推進
【目的】人口減少および労働力不足不安へ対応した地域づくり
【手段】行政のデジタル化、事務の効率化による行政サービスの改善

縦断的な目標 ② ゼロカーボンの推進
【目的】心豊かに暮らすことのできる良好な住環境を本県に創出
【手段】2050年までに二酸化炭素排出量を半減し気候変動対策を推進

2050年(令和32年)まで、人口4,300人を維持することを長期的な目標とし、**2025年度(令和7年度)から2029年度(令和11年度)までの5年間**を計画期間とし取組を推進します。

各年度の進捗状況の報告及び効果検証は毎年行うものとし、戦略の見直しが必要場合、随時見直しを行うものとしめます。

[illegible][illegible]

積極的な交付金の活用を

なかだ たかひろ
中田 隆洋 議員

「地方創生2.0」の方向性

問 前期わどまり未来予想図プロジェクトの評価は。

答 様々な事業を設定し、地方創生を推進し、重要業績評価指標（KPI）も設定していたが、測定困難な指標が多く、客観的な効果検証が難しい状況であった。新たな総合戦略「第3期わどまり未来予想図プロジェクト」では、客観的なデータに基づいた進捗管理を毎年度実施し、着実なプロジェクトの推進に向け取り組む。

問 国の地方創生の成功事例と応用可能性は。

答 全国各地に多くの成功例が生み出されている。町の将来像や強みをしっかりと認識し、地方創生の実現に向けた地域課題を把握・分析したうえで、成功事例を参考に和泊町版として進化させる。

問 永続的な地方創生のための人材育成方針と、若者・女性の活躍促進策は。

答 まちゅんどプロジェクトによる若者が島に帰ってくる環境づくりや、みじらしやエリアプロジェクトによる生涯活躍のまちづくりなどに取り組んでいるが、更に永続的な地方創生のために若者や女性にとって魅力ある働き方や職場づくり、ライフスタイルを提案できるよう官民一体となった取り組みを推進する。

問 地域資源の再利用による地域内外との共存共栄の取り組みは。

答 持続可能なまちづくりを達成するため、長期的な視点に立ち、地域が主体の取り組みが重要だと考えている。町の特性にあった地域資源の再利用を推進し、地域内の住民はもとより地域外に出ている若者や女性、出身者の声も聞きながら、目指す町の将来像実現に向け取り組む。

問 課題解決と利益の両立を目指す長期的事業の構想は。

答 第3期わどまり未来予想図プロジェクトでは、単に地域課題を解決するだけではなく、経済的利益を上げることとで長期的で持続的な事業を進め、地域活性化や地域住民の福祉向上を図り、持続可能なまちづくりに繋げる。

請願(陳情)ってなあに？

町民の皆さんから、国や県、町の行政などに対する意見や要望を文章(請願書・陳情書)で町議会に提出すること。

和泊町議会は、請願及び陳情を町民による政策提言と位置づけています。

請願については、紹介議員が必要で、提出された請願書は関係する常任委員会等で審査された後、本会議で採決されます。町だけで対応できない問題は、国などに意見書として送付します。

採択された場合、一般的に議会の意見として各関係機関に意見書の提出や要望することができます。

興味のある方は
ホームページも
ご覧ください。→



《令和6年度各会計の決算額と採決の結果》

区 分		歳入決算	歳出決算	差 引	採決結果
一 般 会 計		72億6797万円	71億40万円	1億6757万円	全会一致で認定
特 別 会 計	国民健康保険	11億5017万円	10億9590万円	5427万円	全会一致で認定
	奨学資金	1273万円	336万円	937万円	全会一致で認定
	介護保険	9億4056万円	9億470万円	3586万円	全会一致で認定
	後期高齢者医療	1億1309万円	1億666万円	643万円	全会一致で認定
水道事業（収益的部分）		2億794万円	1億9227万円	1567万円	全会一致で認定
下水道事業（収益的部分）		4億2807万円	4億559万円	2248万円	全会一致で認定
合 計		101億2053万円	98億888万円	3億1165万円	すべて認定 

※決算額は1万未満を四捨五入で掲載しているため、差引・合計額が一致しない場合があります。

監査委員意見書より

【一般会計・特別会計】

令和6年度の和泊町一般会計及び各特別会計の決算については、前述のとおり係数に誤りはなく適正な会計処理であったと認められます。限られた予算の中で最小の経費で最大の成果を上げるよう努力していることや、歳出の削減及び自主財源の確保などの取り組みの成果が確認できます。

財政指標については、将来負担比率は改善されているものの、実質公債費比率は依然として高い水準にあります。公営企業会計も含めた公債費の負担を考慮すると急激に改善することは見込めず、財政構造の硬直化が今後も続くことが懸念されます。

今後の多様化する行政需要、将来のまちづくりに向けた経費や住民サービスに関する経費が圧縮されることのないよう、財政の健全化は不可欠です。

引き続き財政健全化対策に集中的に取り組むことはもとより、既存事業の徹底的な見直しや公共施設の適切な再編など強力な行財政改革に努めることにより財政の安定を図り、本町が目指す「人と未来を笑顔でつなぐ、心豊かな和の町、和泊町」の実現に向けて前進することを願います。



事業経過を しっかりチェック!

9月16日(火)決算審査特別委員会の
現地調査にて、各委員会が選定した
事業箇所の現状確認をおこなった。



☑ 内城小学校改修工事

工事内容：長寿命化を目的とした予防改修工事

屋根塗装、外壁塗装、外部建具周囲シーリング打ち替え
2階西側ベランダ撤去

補助事業：学校施設環境改善交付金事業



☑ 城ヶ丘中学校電灯設備改修工事

工事内容：校舎や体育館の蛍光灯や水銀灯をすべてLEDに取り替え

補助事業：二酸化炭素排出抑制対策事業



☑ ヤーシチ公園遊具更新

工事内容：大型複合遊具一式・ブランコ一式を更新

補助事業：社会資本整備総合交付金事業



☑ 和泊小学校につながる道路歩道整備(町道小積原名川線)

工事内容：継続して行っている通学路の道路及び歩道の新設

補助事業：社会資本整備総合交付金事業

総務文教常任委員会 所管事務調査報告

令和7年8月6日(水)に休日における部活動の地域移行について南さつま市、いちき串木野市、枕崎市の3市の取り組みや課題を調査。

①地域指導者の質と量の確保 ②地域指導者への謝金を含めた地域移行にかかる経費 ③多様なスポーツ・文化活動の機会の確保 ④スクールバスやスポーツ団体のマイクロバス活用にかかる経費 ⑤指導したい教員もいるが、教員と地域指導者との指導方針の共有等があった。

現状は、国の助成金で運営を行っているため助成金が無くなった場合、財源的に厳しい運営になると各市とも認識していた。

本町は、民間のスポーツクラブもなく、指導者は役場職員を中心に地域の指導者が多数いる現状である、部活動の地域移行は、地域の指導者(会社員)と学校が連携し両方の負担が軽減できるような体制づくりを慎重に行わないといけない。一番大切なのは、子どもたちの活躍できる環境が窮屈にならないよう柔軟に対応しなければならない。



要望書を提出しました

経済建設常任委員会では、町民の生活インフラの根幹をなす水道事業に対し、町民からの意見や現場の実情を踏まえた改善提案を行っております。

9月12日(木)中田隆洋委員長が、町民の生活の質と信頼性の向上に資する制度改正を、早急に検討・実施いただけるよう、町の水道事業の運営方針の見直しを求める要望書を提出しました。



【要望事項】

1. 不可抗力による漏水時の減免処置について、「年1回まで」とする制限の見直し

不可抗力(例: 地中管の経年劣化、地盤変動など)による漏水は、住民側に明確な過失がないにもかかわらず、減免申請が「年1回まで」に限定されている現状は、町民にとって極めて不合理です。生活実態に配慮した柔軟な運用が求められるため、回数制限の撤廃または緩和を行う制度改正を要望いたします。

2. 漏水による水道料金の減免における計算方法の見直し

現行の減免算定方法では、漏水による損失が十分に補填されないケースが見受けられます。町民の実態や心情に即した、より納得感のある算定基準と減免方式への見直しを強く要望いたします。

経済建設常任委員会 活動報告

令和7年8月5日(火)、宮崎県にある株式会社 OGATA 様が来島され、
「和牛配(TMR)」^{わぎゅうはい}について勉強会・意見交換会を行った。

和牛配(TMR)は、大分県日田市の(有)本川牧場で開発されたエコフィード^{しよくひんざんさしりょう}(食品残渣飼料)で、焼酎かすや豆腐かす・醤油かすなど食品残渣を活用した発酵飼料。

輸入穀物への依存を減らし、食品廃棄物の削減や二酸化炭素排出の抑制といった環境負荷の低減にもつながる取り組みとして注目されている。宮崎県内ではすでに育成牛・繁殖牛に導入が進んでおり、母牛や子牛の健康状態の改善、病気の軽減などに効果があると評価されている。

安定した栄養価を持つ発酵飼料を年間を通じて活用することで、気候変動や台風による牧草生産の不安定さに対応し、経営の安定化にも寄与することが期待されている。こうした先進事例を学ぶことは、今後の畜産振興や地域の持続可能な農業経営を考える上で大変有意義な機会となった。

令和7年8月6日(水)、佐賀県武雄市議会の議員が本町を訪問され、
実験農場にて行政視察が行われた。

本町が進めている農業振興の取り組みについて説明を行い、実験農場で実施している試験栽培や営農技術について意見交換を行った。特に、南国特有の気候を活かした作物の栽培方法や、農業経営の省力化・効率化を目指した技術開発に関心が寄せられ、活発な質疑が交わされた。

他地域の議員の皆さまからの質問や意見をいただくことで、私たち自身も改めて本町の農業の可能性や課題を見つめ直す機会となった。今後も、こうした交流を通じて得られた知見を活かし、持続可能な農業の発展に努めていく。



中学生の視点から町政を問う

令和7年度子ども議会が7月30日(水)に開催され、前田議長の進行で9名の中学生議員から質問・意見・要望等が出され、活発な議会となりました。

和泊中学校3年

いけやま かいしん
池山 海辰 議員



命をつなぎ未来を育む和泊町に!出産祝い金制度の見直しを!

Q. 産婦人科施設を新たに建設できないか。

A. 建設には場所、費用、機器、人材確保などの課題がある。島内の産婦人科施設は医師2名体制で出産環境が整備されており、既存施設の維持と妊産婦支援を継続していきたい。

Q. 出産祝い金制度を変更(増額)できないか。

A. 国の支援に加え、町独自で新生児1人に10万円を支給している。乳児用品助成や医療費助成など幅広い子育て支援を継続し、住みよい町づくりに努める。

城ヶ丘中学校2年

しまだ りゅうせい
島田 琉世 議員



赤土を防ぐために、溜^{ため}柵と赤土ダムをつくる

Q. 畑の中に溜柵をつくることはできないか。

A. 溜柵は赤土流出防止に有効な手段である。既存の土砂溜^{どしゃだまり}は定期的な除去で機能維持が必要であり、農家と連携し広く周知していく。

Q. 赤土ダムをつくることはできないか。

A. 革新的なアイデアであり、濾^ろ過^か機^き能^{のう}による水質改善が期待できる。既存の沈砂池^{うんさち}は定期的な除去で赤土流出防止につなげたい。自助・共助・公助を基本に、農家へ緑肥植付け等も要請し対策を進める。

和泊中学校3年

いけした だいき
池下 大樹 議員



未来の和泊町を担う、人材育成プロジェクト

Q. 農業お手伝いイベントを実施できないか。

A. 担い手不足解消に役立つ良い機会となる。町も協力するので、生徒会を主体として企画し、地域の協力をもらいながら、若者が農業に触れる機会が増えることを期待している。

Q. 公民館等の公共施設で自習室を設置できないか。

A. 学力向上や夢の達成に繋がる。図書館に無料自習室が2箇所ある。各字公民館での設置は監視員確保やリモートによる監視など課題を検討し、学習と体力づくりの両立も目指していきたい。

城ヶ丘中学校2年

い で
井手 うらら 議員

建物に関して

Q. みじらしゃ通りのお店をリフォームできないか。

A. 営業していない店舗もあるため、活性化のためリフォームは有効。活用可能な店舗調査や、学生による期間限定ショップや外装のリフォーム等も検討し、連携して活性化を目指す。

Q. 公園を設置して交流の場をつくることができないか。

A. 既存公園の維持・管理が難しく利用者も減少している。中学校周辺に公園がない問題は認識しており、どのような公園が求められるか調査し検討していきたい。

Q. 備蓄庫をつくることはできないか。

A. 台風時の食料問題対策として良い案。設置場所、備蓄量など検討事項があるため、貴重な意見として参考にさせていただきたい。

和泊中学校3年

おおた はるみち
大田 晴道 議員

和泊町 Welcome プロジェクト

Q. 子供たちが作成した芸術作品を活用した「アート探し」を観光にできないか。

A. 滞在時間や消費額増加に繋がる面白い取り組み。スタンプラリーなど類似企画実績もあり、今後のジョギング大会での実施など事業案として検討し協議したい。

Q. 空き家を活用しシャッター街をにぎやかにできないか。

A. 商店街の景観改善や活性化に重要。空き店舗調査、学生との連携でイベントや休憩スペース設置など、魅力的な商店街づくりに学生の皆さんと一緒に取り組んでいきたい。

Q. 中高生がSNSで和泊町の魅力を発信できないか。

A. SNSは有効な手段。町や観光協会も動画発信中。高校生との連携実績もあり、今後も継続。島の魅力を発掘し、サンサンテレビの企画に投稿してほしい。

Q. 沖永良部・鹿児島島の交通アクセスを改善できないか。

A. 飛行機料金は航空会社が決定。割引制度はある。欠航・遅延対策は協議会で要請中。沖縄と連携した観光も強化し、全国からの誘客と住民利便性向上を目指したい。

城ヶ丘中学校2年

やながわ みほ
柳川 実穂 議員

海ごみについて

Q. 各字に呼びかけ清掃活動を行うことはできないか。

A. 年1回の「夏のクリーン大作戦」や台風後の委託清掃、ボランティア活動も実施中。今後も多くの協力者を得て美しい海岸維持に努めていく。

Q. エコバッグや水筒の使用を習慣化できないか。

A. プラスチックゴミ削減に重要。町はエコバッグ配布済み、小中学校は水筒持参を習慣化。職員もマイボトル利用が増加しており、意識向上に向け周知を継続していく。

和泊中学校3年

なかや るい
中屋 瑠唯 議員

活気ある町づくりプロジェクト

Q. 本格的にスポーツを楽しめる運動場を整備できないか。

A. 町民運動広場は利用されるが、タータントラックは未整備。整備には多額の費用と維持費がかかるため、優先順位を決め、できることから検討していきたい。

Q. 映画や買い物を楽しめる商業施設を建設できないか。

A. 商業施設への需要は認識。大型施設は課題が多いが、商店街の空き店舗活用は可能。リフォームや学生とのイベントなど、子どもも含めた町民全体で活性化を目指したい。

和泊中学校3年

いまい かなた
今井 奏汰 議員

海の環境保全プロジェクト

Q. 拾ったゴミで町の施設割引券と交換できないか。

A. 環境保全と地域振興を両立する素晴らしい提案。清掃活動促進はもとより、地域資源への理解促進、健康づくり、交流促進に繋がり、町としても実施に向けて取り組みたい。

Q. サンゴの移植活動を推進できないか。

A. サンゴ礁は海洋生物のすみかとなっており重要。水温上昇や食害等による白化も問題となっている。モニタリングや食害生物駆除を実施中であり、移植体験イベント等の開催を検討していきたい。

Q. 有機農業を推進（落ち葉堆肥、有機農業推進農家への補助）できないか。

A. 30年以上にわたって環境保全型農業を推進。落ち葉堆肥は今後実証できないか検討したい。補助金は国が中心だが、町独自で有機質資材購入費の助成事業の実施を予定している。

城ヶ丘中学校2年

はぎはら たつひろ

萩原 龍宏 議員



観光客の増加に関して

Q. 宿泊施設を増やすことはできないか。

A. 現在21施設で、約300名収容できる。イベント時は満室になることもあるため、年間通じ利用増が必要。「空き家活用促進補助金」制度で宿泊施設整備も場合によっては可能と考える。

Q. PR動画を作ることはできないか。

A. SNSでのPR動画は認知度向上に有効。自然、文化、特産品など魅力は多い。観光協会等も様々な動画を発信中。学生にもサンサンテレビへの投稿を促す。



▲ 入り口名札



▲ 真剣に聞いている様子



▲ サンサンテレビが撮影



▲ リハーサル打ち合わせ



▲ 休憩中の様子



▲ 前田議長

子ども議会を通して

城ヶ丘中学校2年 まえだ りほ 議長

私は議長という大役をすることになり、緊張と不安でいっぱいでしたが、先生方や関係者の方々のサポートのおかげで、やりきることができ今は達成感を感じています。

今回、この子ども議会で沖永良部・和泊町をより良くするための素敵な意見を出し、発表してくださった議員のみなさん、お疲れ様でした。今日の経験は普段体験することができない経験になったと思います。ぜひこれからも活かしていきたいと思います。

そして、役場職員の皆様には、私たちの意見や質問に分かりやすく、ていねいに答えていただきました。また、ふだん見ることのできない町の議会運営の仕方を知ることができ、勉強になりました。

今日学んだことを学校や地域でも活かしていきます。

最後に、ご協力くださった関係者の皆様、本当にありがとうございました。



議会を傍聴してみませんか

町の予算や身近な問題について話し合う大切な場で

**だれでも自由に
見たり、聴いたりできます！**



令和7年第4回議会定例会（予定）

日	月	火	水	木	金	土
12/14	15	16 本会議初日 一般質問 (9:30～)	17 一般質問 (9:30～)	18	19 本会議最終日	20

本会議場での傍聴

●本会議の受付所…役場2階 議場入口

- ①傍聴者名簿に名前を記入
- ②一般質問通告書をもらい入場

テレビでの視聴

●一般質問の様子をサンサンテレビで生放送(再放送2回あり)

編集後記

編集委員として1年が経ちました。

今後は、町民の皆様に親しみやすく、読みたくなるデザインや構成に心がけ、議会活動を分かりやすくお届けできるようにしていきたいです。

文責／市来 武次



委員	副委員	委員	編集責任者	議長	発行責任者
市 中	川 島	田 野	利 則		
来 村	間 田	武 哲	利 則		
次 子	志 樹				

今号の表紙



子ども議会の議員の皆さんです。夏休み期間中にリハーサル・本番と大変だったかと思ひます。

当日はサンサンテレビの撮影が入り、先生方の見守る中緊張しているようにも見えましたが、良い経験になったのではないのでしょうか。